

主要通貨 来週の為替見通し(1. USDJPY、2. EURUSD、3. GBPUSD) 1月27日(金曜)午後3時現在

1. USDJPY 来週の予想レンジ 77.00~78.95 中期の予想 76.50~80.50

1. USDJPY 自体ではそれほど主体性が見られず、底値を 50 ポイント切り上げたただけ、注目は円クロスの流れの影響
2. 海外勢は EURJPY や AUDJPY などのクロスでの円売りを仕掛けている
3. 76.50 円~78.50 円の中で推移している間は引き続き値幅の狭いレンジ相場、問題はその水準が抜けた場合、

USDJPY・8 時間チャート

USDJPY・Daily チャート

USDJPY・Weekly チャート



期間	25 指数移動平 均線	DiNapoliオシレータ・ プレディクター		スロー・ ストキャスティック		トレンド	サポート 1.	サポート 2.	レジスタ ンス 1.	レジスタ ンス 2.
		DOPup	DOPdn	%K	%D					
USDJPY・8時間チャート	77.30	78.22	77.24	35.46	50.99	↓	77.21	76.55	77.62	76.28
USDJPY・Dailyチャート	77.25	78.93	76.40	56.45	57.84	↓	76.55	75.55	78.28	78.93
USDJPY・Weeklyチャート	77.67	80.67	73.56	36.01	36.24	↑	75.50	73.56	79.37	80.38

今週は、年明けから続いた、大枠 76.50~77.50 のレンジ相場の上限を上抜け、78 円台の実需の売りを消化し、25 日には 78.28 まで上昇した。先週の 17 日にはオニール・ゴールドマンサックス会長が日本は経常黒字を維持する能力を失い円は 25% 過大評価されている可能性があると言っていた。23 日にはラガルド IMF 専務理事は日本の公的債務を減らすに足る計画を避ける道はないと言、海外投機筋は日本の政局や消費税引き上げが実施できるか注視していた。欧州格下げラッシュも一段落し、政府・中銀による危機対応策でなんとか落ち着きを取り戻しかけているユーロから、円安を狙い撃ちムードが高まる中で、24 日には日銀は日本の GDP 予測を下方修正し、EURJPY で円高が日本経済に与えるマイナス影響を注視すると公表し、AUDJPY や EURJPY を中心としたクロスで円売りがじわじわ進み始めていた。24 日には日本の 2011 年貿易統計が 31 年ぶりの赤字となり円はクロスで急落し、ドル円も 78 円台まで上昇したが、実需や利食いの売りに再び 77 円台半ばの水準に逆戻りしている。

来週は、引き続き日本の政局と消費税引き上げの実施の可能性を気にしながら、格付け会社の日本国債へのコメントにも注意したい。また、月末をまたぐ週でもあり、ポジション調整が入りやすい環境にあり、78 円台は 11 月 7 日以降、滞空時間は短く実需筋のドル売り意欲は相当高いことが予想される。日本が経常赤字に陥る可能性を意識し始めれば話は別だが、現状ではそれを意識するには時期尚早で、円売りをリードしている、AUD、EUR、NZD、CAD の動向を見ながらの展開が予想される。AUDUSD は昨年 10 月末の水準まで上昇、AUDJPY は昨年 10 月の水準を超えて 9 月時点の水準まで上昇、それぞれ重要なポイントに差し掛かっており、EURJPY は昨年 12 月半ばの水準となる 102 円近くの重要なポイントまで上昇、相当の抵抗が考えられる。

テクニカル

8 時間チャートは、EMA が 77.30 でこの水準を下限し下げ止まっているが、ストキャスティクスは売りへ変化し、77.30 を割り込むと売りの流れへ変化し、逆に割り込めず、ストキャスティクスが買い変化すれば上昇の流れが続く可能性が高くなる。下値のポイントは 77.21、76.55。下値のポイントは 77.62、76.28。

Daily チャートは、EMA が 77.25 でこの水準を下限に下げ止まっているが、ストキャスティクスは買いへ変化する可能性が見られ、終値でこの水準を下回ると売りが加速する可能性が出てくる。下値のポイントは 76.55、75.55。上値のポイントは 78.28、78.93。

Weekly チャートは、EMA が 77.67 でこの水準を週終値ベースで超えてくると、ストキャスティクスは買いへ変化する可能性が見られ、買いの流れに変化する可能性が高くなる。下値のポイントは 75.50、73.56。上値のポイントは 79.37、80.38。

主要通貨 来週の為替見通し(1. USDJPY, 2. EURUSD, 3. GBPUSD)

1月27日(金曜)午後3時現在

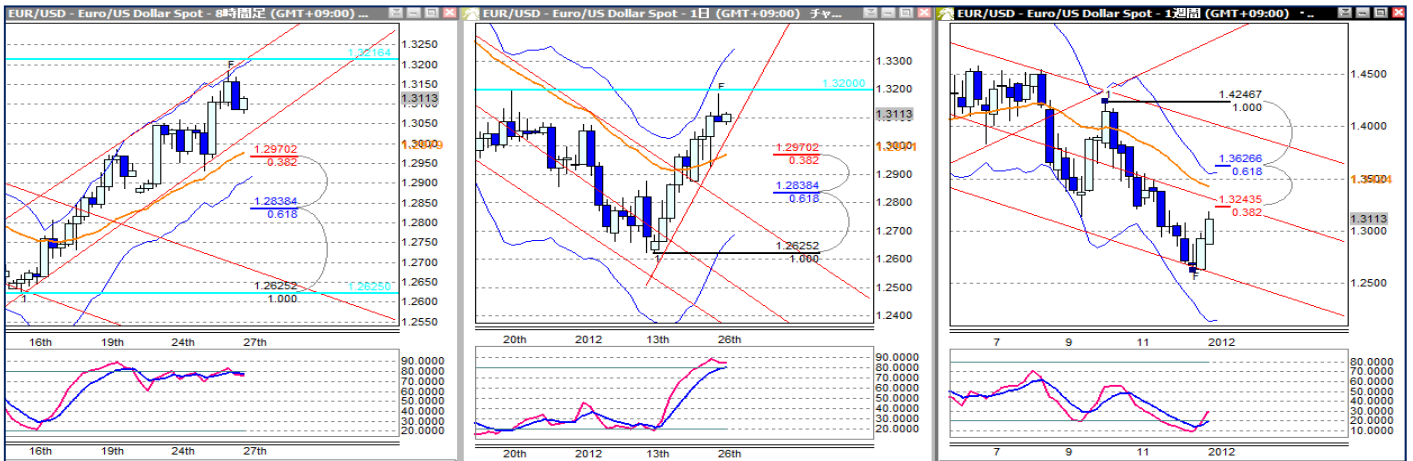
2. EURUSD 来週の予想レンジ 1.2900~1.3400 中期予想レンジ 1.2500~1.3400

1. 昨年末から続いたポジション調整がどこまで続くのか?
2. ユーロ圏の金融市場がひとまず安定し、今後の EURUSD の相場はブル派とベア派が両極端に判れる
3. 過去の日本、米国と、量的緩和した国は通貨安となっていた。今回はユーロ圏だが、今後どうなるのであろうか?

EURUSD・8時間チャート

EURUSD・Daily チャート

EURUSD・Weekly チャート



期間	25 指数移動平 均線	DiNapoliオシレータ・ プレディクター		スロー・ ストキャスティック		トレンド	サポート 1.	サポート 2.	レジスタンス 1.	レジスタンス 2.
		DOPup	DOPdn	%K	%D					
EURUSD・8時間チャート	1.2979	1.3198	1.2904	75.07	77.29	↓	1.3050	1.2970	1.3198	1.3216
EURUSD・Dailyチャート	1.2972	1.3312	1.2660	85.59	81.33	↑	1.2970	1.2838	1.3200	1.3312
EURUSD・Weeklyチャート	1.3424	1.3548	1.2134	30.05	20.08	↑	1.2590	1.2134	1.3244	1.3627

今週も、先週に続き EUR 高の流れが続いていた。1月13日(金)の S&P がユーロ圏 9 カ国を格下げした当日の安値 1.2623 を底値に 26 日(木)には 1.3183 まで 560 ポイント、2 週間で約 4.4% の上昇となった、今週 1 週間でも 23 日(月)のボトム 1.2875 からは 308 ポイントで約 2.4% の上昇となった。主な要因としては、12 月 20 日に ECB が実施した、3 年物の無制限資金供給オペが上げられ、金融機関の資金調達リスクが大幅に軽減され、格下げされたスペイン、フランスなどの債券入札は好調で格下げ前より利回りは低下していた。また、ユーロ圏やドイツの景況感の改善を示唆する経済指標の発表も多く、ドイツが EFSF と ESM の並行稼働と資金規模の拡大見通しに、ギリシャ政府と民間債権者団体との債務交換協議の難航やドイツの昨年第 4 四半期 GDP マイナス見通しなど、マイナス要因が無視され続けた。ユーロ安を見込み膨らんだ膨らんだショートポジションの巻き戻しに値を戻しながら、米 FOMC で低金利政策の終了時期が延長されたことで大幅にその流れが加速した。

来週は、30 日の EU 首脳会議では、新財政協定や EFSF の規模拡大、ギリシャ問題もテーマと思われ、今週末にでも事前にその内容に関して聞き漏れてくる可能性もあり、首脳会議の結果によっては、EUR のさらなる上昇や、逆に売りへ変化するという両方向のリスクが存在している。フィッチ・レーティングスは、ユーロ加盟国の格付けウォッチネガティブ指定の見直しを 2012 年 1 月末までに完了させる予定と発表しており、先の 13 日に S&P が格下げを発表と比べ影響力は格段に落ちると思われるが、それでもリスクとしては残っている。また、2 月 3 日には米雇用統計の発表があり、失業率予想は前回と同じ 8.5%、非農業部門雇用者数は予想 15.5 万人で前回 20 万人より低下が予想され、経済指標のメインイベントで相場への影響力は大きい。2 月 1 日にはイタリア 10 年債 260 億ユーロ償還があり、大量の償還で債券相場の影響を受けやす、ユーロ圏の国債利回りの動向を見守る必要もある。

テクニカル 8 時間チャートは、EMA1.2979 を底値に上昇トレンドが続いている。ストキャスティクスは、ハイベースに留まり上昇トレンドの継続を示唆。プライスは上昇トレンドの上限近くで、一時的な調整売りの可能性もある。下値のポイントは 1.3050、1.2970。上値のポイントは 1.3198、1.3216。

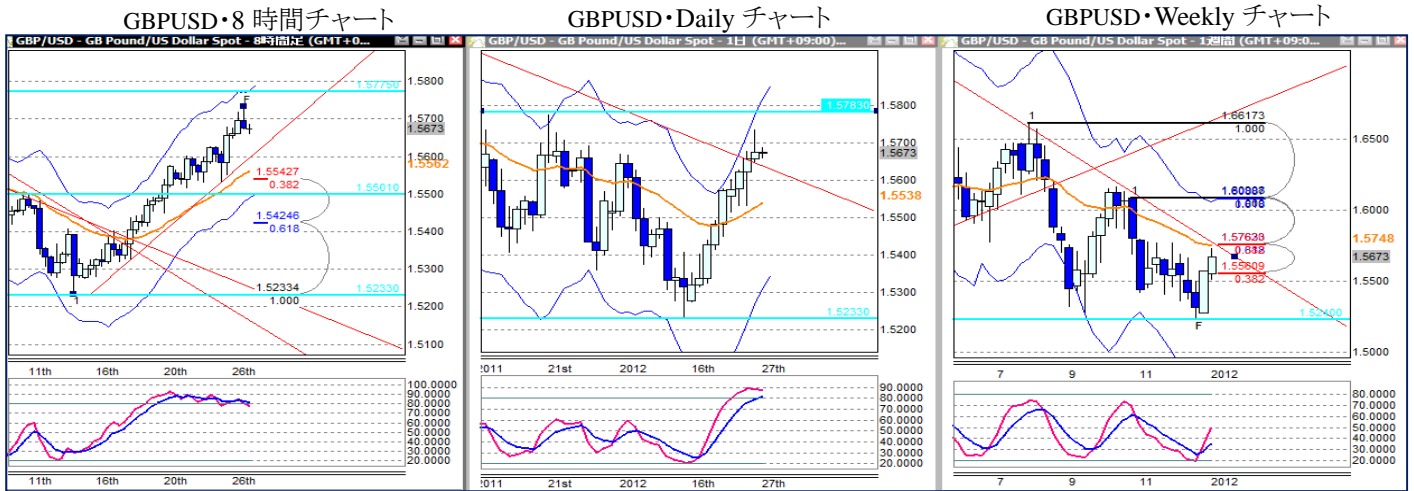
Daily チャートは、EMA1.2972 でこの水準を上回り上昇トレンドが続いている。ストキャスティクスはハイベースで買いから売りへ変化する兆しが見え、本日上値のトライが失敗すれば、売りへ変化する可能性は残るが、EMA を終値ベースで割り込むまでは上昇トレンドが続きそうである。上値のポイントは 1.2970、1.2838、下値のポイントは 1.3200、1.3312。

Weekly チャートは、EMA1.3424 で売りを継続しているが、長いダウントレンドの下限で上昇し、ストキャスティクスは買いに変化している。下値のポイントは 1.2590、1.2134。上値のポイントは 1.3244、1.3627。

主要通貨 来週の為替見通し(1. USDJPY、2. EURUSD、3. GBPUSD) 1月27日(金曜)午後3時現在

3. GBPUSD 来週の予想レンジ 1.5500~1.5800 中期予想レンジ 1.5300~1.5800

1. EURUSD に追従は変わらないが、もし、再び債務危機が焦点になっても、EUR と比較すると影響はより緩慢で分がある
2. GBPUSD1.5800 を超えると、長い上昇トレンドに変わる可能性
3. GBPJPY が 122 円台を超えると、GBPUSD にも影響する可能性



期間	25 指数移動平 均線	DiNapoliオシレーター・ プレディクター		スロー・ ストキャスティック		トレンド	サポート 1.	サポート 2.	レジスタン ス 1.	レジスタン ス 2.
		DOPup	DOPdn	%K	%D					
GBPUSD・8時間チャート	1.5562	1.5776	1.5489	76.78	80.61	↑	1.5562	1.5424	1.5734	1.5775
GBPUSD・Dailyチャート	1.5539	1.5816	1.5310	86.89	82.07	↑	1.5539	1.5310	1.5783	1.5816
GBPUSD・Weeklyチャート	1.5748	1.6061	1.4816	49.53	35.74	↑	1.5764	1.5561	1.5691	1.6617

今週も、先週に続き GBPUSD の上昇の流れが続いた。1月13日(金)の S&P がユーロ圏 9 カ国を格下げした当日の安値 1.5233 を底値に、2 週連続で陽線引けが続き、26 日には 1.5734 まで、501 ポイントで約 3.3% 上昇、今週初めの安値 1.5516 からでも 218 ポイントで約 1.4% の上昇となった。主な要因は EURUSD と AUDUSD 高の連動性と、EURGBP の売りの影響に GBP は底堅く推移したと思われる。昨年 11 月から続いた EURGBP での GBP 安の流れは、1月9日の安値 0.8221 を底に反発した。経済指標では小売売上高の前月比は前回・予想を大きく上回り、公共部門の純借入額は前回・予想を大幅に下回り、財政赤字の予想を下回るとの期待がもたれ、BBA 住宅ローン承認件数も前回・予想を大幅に上回り住宅関連に明るい兆しが見られた。第 4 四半期の GDP は前期比 -0.2% で予想・前回を大きく下回りリセッション入りの可能性も危惧する声も聞かれたが、それでも、GBPUSD はそれをボトムに大幅に上昇を続けた。2月8日の英中銀の金融政策委員会では、キング中銀総裁やポーゼン政策委員が量的緩和の拡大を示唆、それでも GBP は上昇は続いた。

来週は、先週と同じく、EURUSD と AUDUSD の連動性が続く予想される。30 日の EU 首脳会議やギリシャの債務交換協議に行方を注意しながら、EURGBP が大枠 0.83~0.84 に収まっている間は、逆張り志向が続く可能性があり、GBPUSD の 1.58 台は昨年 11 月以降は何度もトライして失敗した水準で 1.57 台では売り圧力が強まることが予想される。経済指標では、特に重要な発表は予定されていないが、31 日の GFK 消費者信頼感指数、消費者信用残高、31 日の住宅ローン承認件数、2月1日の製造業 PMI、2月3日のサービス業 PMI などが注目される。また、2月1日にはイタリア 10 年債 260 億ユーロ償還があり、大量の償還で債券相場の影響を受けやすく、ユーロ圏の国債利回りの動向や、2月3日に米雇用統計の発表を見守る必要もある。

テクニカル

8 時間チャートは、EMA1.5562 でこれを下限に上昇が続いている。ストキャスティクスはハイベースに留まり、上昇トレンドが続いていることを示唆しているが、EMA やトレンドからかい離幅も拡大し、調整局面になる可能性も出ている。下値のポイントは 1.5562、1.5424。上値のポイントは 1.5734、1.5775。

Daily チャートは、EMA は 1.5539 でこの水準を上抜けてから上昇トレンドを続けている。ストキャスティクスはハイベースで売りに変化する兆しがあり、一時的に売りへ EMA の水準まで変化するかの可能性も出ている。下値のポイントは 1.5539、1.5310。上値のポイントは 1.5783、1.5816。

Weekly チャートは、EMA1.5748 で、これを上限として下降トレンドが続いているが、ストキャスティクスは買いに変化、EMA を週終値ベースで上回ると大きな相場の転換点になる可能性がある。下値のポイントは 1.5764、1.5561。上値のポイントは 1.5691、1.6617。

USD=米国、JPY=日本、GER=独、GBP=英国、CAD=カナダ、AUD=豪州、NZD=ニュージーランド、  
CHF=スイス、NOK=ノルウェー、SEK=スウェーデン、CHN=中国、FFR=フランス。為替レート・金・原油価格は GFT 社の取引レート。  
本レポートで言及している市場予想の出所=fx360.com、ロイター社、ブルームバーグ社。各国経済指標・日時の出所=fx360.com、ブルームバーグ社

外国為替保証金取引 (FX) 及び CFD には、高いレベルのリスクが潜在しており、全てのお客様に適した投資商品とは言えません。高いレベルのレバレッジは、利益ももたしますが、損失ももたします。預託した資金を超えて損失を被る可能性もあるため、損失に耐えられない金額を投資するべきではありません。過去のパフォーマンスが、必ずしも将来の結果を示唆しているわけではありません。

本レポートの内容は

- 情報提供の目的にのみ供されるものとし、いかなる投資商品の提供・勧誘その他法的に拘束され得る行為、また、それら投資商品の推奨、助言等を意図したものではありません。
- マーケットに関する意見・予想はその正確性や完全性についてそれらを保証するものではありません。
- レポート著者の予想・意見は必ずしも、弊社及び弊社関係者の見方を反映したものではありません。
- 筆者によって提供される市場に関する如何なる予測や見解についても、その正確性が検証されている訳ではありません。
- 当社は本レポートの内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。

GFT はお客様への一般的な情報として本資料を提供していますので、投資判断を行う際の詳細な独自調査に代えて本資料に依拠することはお控えください。

GFT は、本資料に含まれる情報に基づいた投資の結果として発生した損害に対して、如何なる責任も負いません。また、投資、法律、会計、税務、またはその他の専門的助言についても、一切提供することはありません。これらの専門的助言が必要な場合は、専門家にご相談ください。

同支店は、日本においては、グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッドとして第一種金融商品取引業者登録(関東財務局長(金商)第268号)および商品先物取引業者許可を取得しており、社団法人金融先物取引業協会および日本商品先物取引協会の加盟業者です。[www.gftforex.co.jp](http://www.gftforex.co.jp)

© 2011 グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッド 著作権/著作権所有。無断複写・複製・転載を禁ず。

CD08J.005.113011